

かせん まも

# 河川を守れ！

だいしんさい ふつきゅう

# 大震災とその復旧

## 鋼矢板とは

こう やいた

鋼矢板とは、河川の護

岸や港の岸壁などで、土

留めや水止めをする壁を

つくるために地面に打ち

込む鋼鉄の板のことを言

います。

板の横幅は40センチから90

センチほど、縦は長いもので

10メートルになります。

この、細長い鉄の板を

つなぎ合わせながら地面

に打ち込むことで、ひと

つの壁のようにして、土

砂崩れや水の浸入を防ぎ

ます。

身の回りの河川の岸な

どをあらためて見ると、

鋼矢板で護岸されたところ

がたくさんあります。

## 鋼矢板を使った

### 護岸工事

香取市の小野川では、

東日本大震災による液状

化現象で護岸が大きく崩

れ、また、護岸が崩れた

ことにより、土地全体が

余震のたびに横ずれを起

こすようになってしまい

ました。

そのため、地元の建設

企業は、15メートルほどの長さ

の鋼矢板を川の両岸に打

ち込むことで、横ずれを

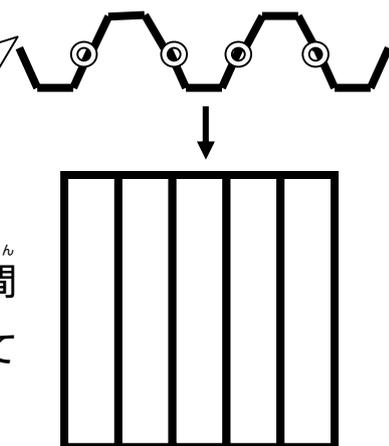
防ぐ工事を行いました。



鋼矢板を打ち込んでいる様子（香取市提供）

細長い鋼矢板を並べて地面に打ち込むことで壁ができる

今回の工事では、92日間かけて、両岸あわせて約700本埋め込んだ。



上から見ると、開いたU字型になっている

14.5  
メートル

50センチ